

識別番号 P 5 2006 年度終了学内共同研究
研究課題 貧困と差別—外国人、難民、野宿者—
研究代表者 町野朔（法学研究科法曹養成専攻）

共同研究者 ホアン・アイダル（文学部人間学研究室）、ビンセンテ・ボネット（文学部人間学研究室）、江藤淳一（法学部国際関係法学科）、金山勉（文学部新聞学科）、久田満（総合人間科学部心理学科）、増田祐志*（神学部神学科）、中野良顕（社会正義研究所客員所員）、理辺良保行（文学部人間学研究室）、園部雅久*（総合人間科学部社会学科）、下川雅嗣*（外国語学部国際関係副専攻）、保岡孝顕（社会正義研究所主事）（注：このうち実際に下記 1 の③「野宿者とその支援」のグループに所属したものは*印をつけてある）

Summary This summary is only as regard to “the lecture series on the Homeless Problems” which was actually carried out in this research projects.

On January 30th 2006, an administrative expulsion of 20 homeless people living in Utsubo Park, Osaka, took place. The execution was carried out by a total of 1000 people: policemen, guardsmen and municipal officials. Despite the high and heated media coverage, not many civilians understood the nature of this issue and due to the lack of basic knowledge, many still hold biased views on the homeless. One needs to know; the underlying factors leading to the increasing number of the homeless people; their daily lives; how expulsion is a matter of survival for them; how the national legal system and the international laws treat this problem and how these laws are often being neglected. This course aimed at informing ourselves and the audience of the fundamentals of the homeless issue by looking at the problem from various aspects.

1. 当初の本研究全体の目的

もともと本研究は、日本社会におけるマイノリティの現状と将来を「貧困と差別」の視点から、特に外国人・難民・野宿者を中心に、その実態調査を試み、日本社会の問題点やその問題点の解消のために何が必要なのかを研究し、それらを本学学生に伝えることを中心に社会化することを目的に 2 年間（2006-7 年度）の研究期間で行われる予定であった。その際、当初は具体的に以下の①神奈川県某中学校の外国人生徒の実態調査、②外国人・難民の支援、③野宿者とその支援、④難民認定制度と定住問題の 4 つのグループに分かれて研究を進め、最後に総合的把握を試みるような研究会を行う予定であった。しかしながら、2006 年度の途中で急遽、2007 年度の継続が認められないとの通知があったため、研究の継続性が期待できないため①②④のグループは本学内共同研究としては中止され、実質的には③のグループが予定を若干変更して、1 年間で成果を挙げることが期待される部分として、「野宿者問題連続講座」が行われた。次項以降、「野宿者問題連続講座」の目的と背景、そしてその内容と成果についてまとめる。

2. 「野宿者問題連続講座」の目的及び背景

2006年1月30日に大阪城公園、うつぼ公園の約20名の仲間のテントに対して約1000人の警察、職員、ガードマンがやってきて強制排除（行政代執行）が行なわれた。このことは、新聞・テレビなど多くのメディアを通じて報道されたが、そのような報道の感想を学生に聞いたところ、かなりの誤解が生じているように思われた。一般に、実情を良く知らない多くの市民は野宿者に対して、様々な偏見や誤解がある。その原因として、そもそもなぜ野宿者が増えているのか、その野宿者が日ごろどのような生活をしているのか、なぜ公共地に住まざるを得ないのか、公共地から排除されることによって彼らの生活の基盤が崩され生き死にに直結する、といった野宿者に対する基本的な事柄が理解されていないことがあるのではないかとと思われる。さらに国内法や国際法がこの問題をどう取り扱っているか、そしてこれらが日本においては如何に守られていないか等もあまり知られていない。そこで、本講座は、本学教員のみならず、外部から様々な講師を招き、野宿者問題をその背景も含めていろいろな側面から総合的に取り扱うことによって、この問題の本質をより深く考えていく総合的材料の提供を目的とした。また、本講座を学生及び一般に公開し、広くこの問題についての意識及び理解を深めることをも目指した（なお「野宿者問題」と題しているが、野宿者が問題ではなく、野宿者を取り巻く社会構造や私たちのメンタリティーに問題があると考えている）。

3. 「野宿者問題連続講座」の日程・内容

第1回 10月19日(木)[17:00-19:30]

セッション1:「野宿者問題の概要」(17:00-17:50)

【内容】本連続講座のイントロダクション・全体像、及び日本における野宿者の状況、原因、対策と運動の歴史の概要。

【講師】下川雅嗣（上智大学外国語学部国際関係副専攻）

セッション2:「野宿者の人権と社会的排除」(18:00-19:30)

【内容】ホームレス問題は、住居も失うほど生活に困窮し野宿を強いられている人々だけの問題ではなく、失敗を許さず相互に監視し合うこの社会の中で生きにくさを感じているわれわれ全体の問題だ。生存権保障は、リスクを抱えながら綱渡りのような人生を自由に生きていくための、全ての人にとってのセーフティーネットである。ホームレス問題を社会的排除という観点から捉え、その克服可能性を憲法や生活保護法、ホームレス自立支援法だけでなく、国際人権法も参照しつつ、支援の現場での経験も踏まえ、検討したい。

【講師】笹沼弘志（静岡大学教授・憲法学専攻、野宿者のための静岡パトロール事務局長として野宿者支援の活動に従事）

第2回:11月16日(木)[17:00-18:30]

セッション3:「行政のホームレス対策」(17:00-18:30)

【内容】行政側のホームレス対策の考え方：歴史・法律・具体的計画、特に東京都の対策（自立支援事業、地域生活移行支援事業、公共地の適正管理について、そして今後）。

【講師】池田幹雄（東京都福祉保健局生活福祉部計画課自立支援係長）

【司会】園部雅久（上智大学総合人間科学部社会学科）

第3回:12月14日(木)[17:00-20:00]

セッション4:「野宿者運動の展開」(17:00-18:20)

【内容】野宿者運動と民間の支援活動の概要を最初に簡単に紹介した上で、隅田川での野宿

者たちの具体的取り組みを、野宿当事者の声も交えて紹介します。また、前回の行政の施策が現実の野宿の現場でどのように受け止められ、どのような取り組みが行われているかも語っていただけたと思います。

【講師】吉田亜矢子（隅田川野宿者支援者）と隅田川の野宿者有志

セッション5:「貧困問題とネットワークの必要性」(18:30-20:00)

【内容】野宿者問題を貧困問題として捉えることによって見えてくる課題とネットワークの必要性、その実践例。

【講師】湯浅誠（便利屋あうん、自立生活サポートセンター・もやい）

第4回:1月11日(木)[17:00-18:30]

セッション6:「新自由主義的グローバリゼーションと野宿者問題」(17:00-18:30)

【内容】新自由主義的グローバリゼーションと野宿者問題の関係、さらには非正規雇用やフリーターの問題、そして世界の持たざる者の運動とその広がり。さらに一年前のうつぼ・大阪城公園の強制排除の話や現在の大阪の野宿者の状況と運動。

【講師】中桐康介（長居公園仲間の会）

4. 研究の成果

本来ならばこの問題に、もっと幅広く総合的に取り組めたかもしれないが、予算と日程の関係上、全部で4回（6セッション）に絞らねばならなかった。特に取り扱えなかったものとしては、例えば諸外国の野宿者問題の実情との比較、また学問的にも社会学的分析、経済学的分析、さらにはグローバル・スタディーズ的な分析も可能であったかもしれない。しかしながら、限られた枠の中ではあるが、短期間でかなり広くこの問題を取り扱い総合的な把握ができたと思われる。また、参加者は本学学生を中心に毎回100人前後であったことから反響が大きかったことがわかる。今回は、野宿者問題の本質をより深く考えていく総合的材料の提供ということであったので、本「野宿者問題連続講座」での講演内容のテープ起こしをもとに『知っていますか？野宿者のこと』という野宿者問題入門書を作成し約1100部印刷した。これを関係各所に配布し、また関心のある学生への配布によって、学生の基本的理解の土台づくりに資することができたと思う。

また、本学社会正義研究所と国際基督教大学社会科学研究所の共催で、2007年12月8日に第27回国際シンポジウム『グローバル化と先進国における貧困と社会的排除：野宿者、フリーター、移住労働者の立場から』が行われるが、本研究はこれにつながる準備の一つとなる予定である。